

ずっと暮らし続けられる
かわさきを



日本共産党市議会議員 (多摩区)

井口まみ

消費税増税NO!
福祉・雇用の充実を

原発ゼロへ
再生可能エネルギー
の普及を

若者を
戦場におくるな!



2014年11月号外 日本共産党川崎市議会議員団
川崎市川崎区宮本町1 川崎市役所内 ☎200-3360

3期12年 市民の力で政治を変える 先頭にたつてきました

こんにちは。井口まみです。

議会に送っていただいて十二年。みなさんの願いを議会に届けてきました。本会議場で取り上げた課題は二百を超えました。

すぐに実現することもあれば、なかなか難しい課題もあります。しかし、どんなに難しく時間がかかってもおきらめず、実現するまで市民と手を組んで取り組むこと。そうすれば必ず政治は変えることができるかと確信してきました。



国民の命をないがしろにする安倍内閣の暴走にストップをかけなければなりません。日本共産党の出番です。そして、川崎市では、自治体が国の悪政の防波堤になり、市民の暮らしを守らなければなりません。私は、皆さんとごいっしょに、ひきつづき全力でがんばります。

井口まみさんに期待します



市村ごろうさん

元川崎市議会議員

先日、井口さんの「くらしの相談センター多摩4周年の集い」に出席しました。

4年間の相談件数は、なんと600件近くに。すばらしいのは、井口さんの頑張りに加え、各分野の専門スタッフが活躍していること。

今、生活保護申請の窓口拒否など生きにくい世の中が進み、生活相談活動の役割がますますたいせつになっています。

市民の苦しみの解決の先頭にたつ井口さんにバトンタッチできて、ほんとうに良かったと思っています。議会でも重鎮。井口さんの議会内外の大活躍を心から期待します。



多摩スポーツセンターは17年間の運動が実り、温水プールも併設され、多くの区民が利用しています



地下水井戸と 生田浄水場の存続に全力

地下水をくみ上げる井戸が 3分の2残ることに

川崎市は、地下水をくみ上げる多摩区の井戸と生田浄水場を2016年に廃止し、市民の飲み水の7割を56キロも離れた小田原の酒匂川からの水に切り替える計画を立てました。「自己水源の井戸と浄水場を残せば、震災時に市民に飲み水を配ることができると、市民の皆さんと運動を始めて6年。集めた署名は3万を超え、大きな世論になりました。

井口議員も、この運動に全力で取り組み、議会での質問は6年間で10回に。小田原と川崎の間には活断層があり、導水管が破損する危険などを明らかにしてきました。

議会と市民の運動が実り、当初すべてを廃止する予定だった井戸22か所のうち17か所を残すことが決定。災害時に地下水を

生かすことになりました。

しかし、井戸は残っても、地下水を水道水として市民に供給するには浄水場が必要です。災害時に命の水を確保することは自治体の責務です。井口議員は「生田浄水場を特別の位置づけで残すべき」と存続を繰り返し求めています。



生田浄水場

水を買いつけるために廃止

節水がすすむ中、06年、川崎市は給水能力を減らし施設全体を縮小する「水道事業の再構築計画」を策定しました。自己水源である多摩区の地下水と相模湖からの取水を大幅に減らし、川崎市の浄水機能は長沢浄水場に集約して生田浄水場は廃止、市民の飲み水の7割を神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市が共同で設立した神奈川県内広域水道企業団からの水でまかなうことにしたのです。

企業団の水を減らさないのは、大規模な水資源開発で建設してきた宮ヶ瀬ダムなどの施設の維持・管理の費用や借金の返済が必要のため、川崎市も構成団体として企業団の水を買いつけなければならぬからとついでいます。

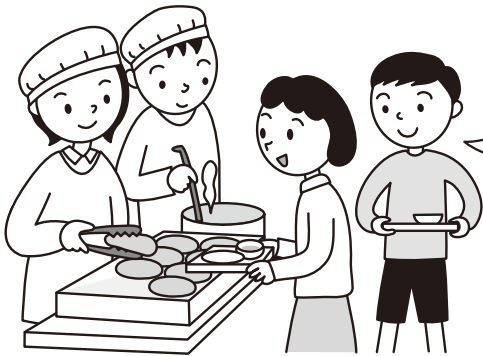
井口みさんに期待します

町井弘明さん

「かわさきの安全でおいしい水道水を
守る会」代表

井口さんは4年間で10回も議会でも市当局の水道行政をただす画期的な議会活動をおこない、私達の会の運動の前進に大きな役割を果たしてくれました。今後とも市民の命の水を守る活動を応援していただくことを期待します。

子育ても老後も安心



中学校給食は
自分の学校で作った、
おいしいのを
食べたいな



保育園に入れな
かったらと
思うと不安で...



中野島中学校で給食室建設の可能性をうかがう

認可保育園の増設を

川崎市は認可保育園に申し込んでも入れない児童が2570人(14年4月)もいます。希望する子どもがすぐに入れるよう認可保育園を増設するよう求めています。

自校方式で中学校給食を

ずっと求めてきた中学校給食が16年度中に始まりですが、自校方式でこそ「安全、安心で温かく、食育ができる」給食になります。多摩区内のすべての中学校を訪問し、自校方式の具体的な可能性について校長先生らと懇談しました。

私立幼稚園の保育料・入園料に補助を

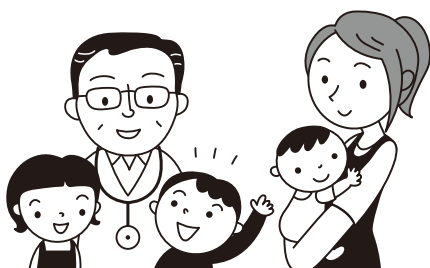
20政令市のなかで一番高い川崎市内の私立幼稚園の入園料と保育料。年額49万円近く払わなくてはなりません。市からの補助は切実な願いです。共産党は高すぎる入園料・保育料への補助の増額をせまっています。

中学生まで医療費無料化を

東京23区、さいたま市は中学校卒業まで医療費は無料で所得制限もありません。ところが川崎市は小学校1年生まで、それも1歳から所得制限つき。共産党は一貫して川崎市でも中学校卒業まで、所得制限なしで拡大せよと要求しています。

大企業は社会的責任はたせ

「ブラック企業」根絶のために日本共産党は国会に法案を提出。川崎市でも大企業の無法人リスト・配転強要に、「市長としてやめるよう



小児医療費
助成を、中学卒業
までに!

ずっとこのまちで暮らしたい

雇用を確保し



議員団と障がい者施設のみなさんと懇談



障がい者グループホーム増設を
議員団は毎年多くの障がい者団体の皆さんと懇談を行っています。井口議員は議員団の障がい者問題対策チームとして関わり、グループホームの増設、医療費無料化などを繰り返し求めてきました。切望されていたショートステイが来年度市内2か所で増設



申し入れをせよ」と代表質問で迫りました。



市民運動で緑を残した多摩特別緑地保全地区

豊かな緑をまもり
乱開発から緑を守る市民のつよい願いを受け、緑地保全の質問を重ねました。よみうりランドの南側に広がる多摩特別緑地保全地区は、住宅建設に反対する10年近い市民のみなさんの運動と協働で残すことができました。

特養ホームの増設を
特別養護老人ホームの待機者は4927人(14年4月)もいます。共産党は、待機者の実態に見合った整備計画をつくり急いで増設するよう求めます。

されます。

このまちがふるさと、住みやすいまちづくりへ粘り強く求めて

中

野島駅橋上化まで北口臨時改札を
「中野島駅を橋上駅舎に」という運動を始めてから20年。

議会で取り上げ、地域でも署名を集め橋上化が09年決定しました。しかし実際の着手はまだ数年先。それまで北口に臨時改札をつくるよう、議会で繰り返し求めていきます。

市営中野島住宅に太陽光パネルを

公共施設に太陽光パネルの設置を求める請願が議会に。市は、市営住宅への設置について「中野島住宅の第3期工事以降に関しては、ソーラー発電の荷重をみこんだ設計はできる」と答弁。さっそく住民の皆さんと実現に向けた検討を申し入れました。

中野島の中心部にバス路線を

登戸駅入口から中野島多摩川住宅のバス路線は、15年間の運動で08年にようやく実現。その後、多摩病院前まで路線を伸ばし大好評に。さらに利便性を高めるために増便と中野島駅までの延伸を議会で求めました。



朝の中野島駅・車道に人がはみ出します

生

田地域にふさわしい社会教育施設を
生田出張所管内には社会教育施設はひとつもなく、市民館・図書館分館の計画も前市長の「行財政改革」で中止に。文化活動などが活発な生田地域に社会教育施設をつくるべきと、12年間で6回にわたり議会で求めています。

栗谷踏切に歩道が実現

踏切内だけ歩道がない、と取り上げ、人道橋とともに整備されました。

避難所が遠い！

山坂の多い生田地域は、指定地域が広いため、高齢者が避難所まで遠くへ行けそうにない地域も。県立高校や自治会館などの耐震対策をすすめ、避難所を分散するよう議会で求めました。

寺尾台に特養ホームを

「警察官舎跡地に特養ホームを」という住民の声をとりあげ、副市長交渉にも同席しました。



菊地副市長交渉に同席



歩道が完成した栗谷踏切



サ

イクリングコースをつなげよう

多摩川サイクリングコースは、布田橋から稲城市までの間が整備されていません。この区間を整備してほしいと議会で4回にわたって取り上げてきました。川崎市は「機会をとらえ国に働きかけをしていく」と答えています。

菅

中学校の体育館・プールの改築を、武道場と併設で

築40年を超えた菅中学校の体育館は外壁がはげおち、鉄筋がむき出しに。プールは老朽化が激しく、武道場ありません。父母の皆さんの「なんとかしてほしい」という声に、議会で、プールを移築し体育館・武道場と合築するよう提案しています。

稲田堤駅橋上化工事の安全対策を万全に

橋上化が決まり、設計が始まりました。乗降者と通行者の安全対策を繰り返し求めていましたが、14年6月、駅前広場の地質調査工事だけで駅前は大変な混雑に。ただちに6月議会で工事中の安全対策を求めました。

多摩スポーツセンターを利用しやすく

温水プール付きスポーツセンター計画が「行革」で凍結されても署名を集め、04年实现。その後、送迎バス、バス停からの点字ブロックの整備、「サウンドテーブルテニス」(視覚障がい者のスポーツ)の利用環境の整備、「貯筋体操」教室(筋力の維持・向上体操)を実現。高齢者の利用料の軽減も求めています。

東菅小、体育館、プールも同時改築実現

トイレも倉庫もなく、照明も暗く、正門から遠かった体育館。学校関係者やPTAから、「校舎の改築にあわせて体育館も同時に建て替えてほしい」と強い意見が上がっていました。議会で「避難所として不相当であり、同時に改築すべき」と求めました。A棟、体育館、プールが同時

に改築され、13年完成した学校は広くてきれいです。

菅仙谷の道路の安全対策を

西菅団地を貫く道路は北端で急に狭くなります。住民のみなさんと現地を調査し、道幅を少し広げる対策を要望。さっそく改善が始まりました。



菅仙谷の現地調査で話を聞く

この党が伸びてこそ 市政を変えられます

日本共産党 川崎市議団 3つの値打ち

2013年10月の市長選挙で、前阿部市政の継承者(自民・公明・民主推薦)が敗れ、大型開発優先の市政に「ノー」の審判が下りました。ところが福田新市長は、これまで以上に大型開発を推進。いまこそ福祉・くらし最優先の日本共産党が伸びることが、みなさんの願いを実現する、たしかな力です。

この4年間、専門家との調査研究、協力により発表した共産党川崎市議団の

政策提言

- 市内の独自の放射線量測定結果と対策
- 川崎市地震防災戦略の見直しへの提言
- 臨海部コンビナートの地震防災対策
- 小杉まちづくりなど都市計画の研究
- 保育園と老人施設の建設運営の経済効果
- 川崎市の自然エネルギー自立化構想
- 国際コンテナ戦略港湾政策の研究
- よりよい中学校給食実現への提案



川崎市議会で

みなさんの願いに
応えている党は

● 反対 ○ 賛成
共産党 自民党 公明党 民主党 みんなの党

福祉切り捨て等の議案への態度 (抜粋)

議案	共産党	自民党	公明党	民主党	みんなの党
重度障害者の入院時食事費補助を廃止する条例 (2003年12月)	●	○	○	○	—
敬老無料パスを廃止・有料化する条例 (2004年3月)	●	○	○	○	—
老人医療費助成を廃止する条例 (2007年12月)	●	○	○	○	—
心身障害者手当を実質廃止する条例 (2011年6月)	●	○	○	○	○
高校奨学金の受給額を大幅減額する条例 (2013年6月)	●	○	○	○	○

国の悪政に反対する意見書への態度 (抜粋)

意見書	共産党	自民党	公明党	民主党	みんなの党
原発の再稼働を認めない意見書 (2012年6月)	○	●	●	●	●
TPP交渉参加しないことを求める意見書 (2013年3月)	○	●	●	●	●
集団的自衛権行使の解釈改憲しないことを求める意見書 (2014年3月)	○	●	○	○	●
消費税10%への再増税の中止を求める意見書 (2014年6月)	○	●	●	●	●

※みんなの党会派は2014年7月以降消滅。
※無所属議員の態度は省略。

1 バツグンの調査力・行動力で 積極的に政策を提案する党

日夜、市内外へ調査活動に駆ける党市議団。原発事故後は10人の議員が市内数百カ所で放射線量を測定。専門家との協力で数々の政策提言を市長に提出(右表)。議案提案権を行使して毎年「予算組み替え案」を提案しています。

2 市民の声が原動力、市民運動と力あわせ 要求実現で市政を動かす党

市民アンケートを何度も実施し、要望を市長や区長に提出。妊婦健診14回公費助成、小中高校のエアコン設置、就学援助の拡充、公契約条例などを実現。中学校給食の実現も、市民運動とねばり強い議会論戦、共産党が発議した「市議会決議」(2011年3月)が力になりました。

3 消費税10%反対、税金ムダづかい許さず 悪政とキッパリ対決する党

“船の来ない港”の大開発、“1メートル1億円”の高速縦貫道路、臨海部に必要ない橋を次つぎ建設する計画(東扇島水江町線540億円、羽田連絡道路400億円)…。自民・公明・民主などが大型開発優先、福祉切り捨ての予算案に賛成する「オール与党」の市議会で、ムダづかいの中止を求めているのは日本共産党だけです。

「戦争する国づくり」憲法改悪許さず

今こそ反戦・平和の党を

アメリカの戦争に日本がまきこまれ、若者を戦場に送る「集団的自衛権」行使容認の閣議決定は撤回を、戦争する国づくりの法整備は許さない…。「憲法9条を守れ」の願いを託せるのは、立党以来92年、反戦・平和をつらぬく日本共産党です。



プレミアム付き 商品券に助成を

商店街ににぎわいを

多摩区商店街連合会では、3年続けてプレミアム付き商品券を発行しました。1万円で買うと1千円分のプレミアがついており、あっという間に完売し、商店街でほとんど利用されましたが、川崎市の補助は印刷代の一部だけ。多くの自治体のようにプレミア分にも補助するように求めています。



ナシ畑のヒョウ 対策に助成金

農業の振興を

近年カメムシやヒョウの被害を繰り返す名産多摩川ナシ。「多目的防災網」が効果があるが、値段が高いと農家から聞き、質問で取り上げました。今年度は昨年度の約3倍の337万円の補助が実現しました。遊休農地の活用や、給食への販路拡大など提案し全小学校に高津産のキャベツが出されました。



リフォーム助成 制度の実現を

建設業の仕事おこしを

市民が自宅をリフォームするのに地元業者を使ったら市がその費用の一部を補助するという制度が、全国500を超える自治体で行われています。地域経済を元気にする効果も大きいということが実証されており、「なんとしても実施を」と毎議会できちんと取りあげています。

住宅も水道も 耐震改修を急げ

災害対策

阪神大震災で亡くなった方の8割は家や家具の下敷きになったためでした。家が倒れたり火事にしないことがまず重要です。家具転倒防止金具の普及や、木造住宅耐震改修事業の予算を増やし、個人負担を軽くして早く推進を、と求め続けています。水道や下水道の耐震化は急務です。繰り返し議会で具体的な進行状況をただしています。井口議員はマンションの貯水槽を耐震貯留槽として活用するためのルール作りを提案し、先ごろ実現しました。

自然エネルギー 普及を

環境対策

太陽光発電施設の普及に、「公的施設には設置を急げ」と求めています。住宅用太陽光発電を短期間で普及するため、補助数・補助率を大幅に増やすよう求めています。



困りごとと解決するまでより添って くらしの相談センター多摩 所長として4年

議員として市民からの相談に真摯に向きあってきた経験から、「困ったことはいつでも誰でも相談できる場所を」と10年4月に「くらしの相談センター 多摩」を開設しました。4年間で6000件近い相談に、井口議員は所長としてスタッフの方と一緒に相談ののこぎりました。

生活費、医療、介護、住宅… どんな問題も解決するまで

「仕事がなくなると生活ができなく」「倒れて半身まひに。退院してほしいと言われたが家では介護できない」など、相談の多くが、いまの社会保障制度のほごまで困っている問題です。明日の生活にも困るほどの深刻な相談も後を絶ちません。その場でスタッフが区役所へ同行し、生活保護の申請を行うこともしばしばです。

すべてには解決できない問題も、議会で取り上げ、あるいは運動をつうじて、少しでも変えていく努力をこころみます。

「どんな問題も解決するまで寄り添って」

をモットーに、スタッフと制度などを学習しながら、一人一人の相談にあたっています。



「くらしの相談センター 多摩」のスタッフのみなさん

井口まみさんに大きな信頼と期待をもっています！



生田6丁目在住 塩田房子さん

「くらしの相談センター 多摩」の相談員として設立のときから井口所長といっしょにたくさん相談にあたってきました。

共産党川崎市議団の市民アンケートに「生活費がない」と書いた方がいました。相談センターの案内をポストにいれておくと、翌日連絡があり、私に対応しました。50歳代の彼は会社でパワハラを受け、人と接することができなくなり、会社をクビ、雇用保険も底をついてしまった、とのことでした。私は彼に付き添って、一緒に区役所へ生活保護の申請に行き、受理されるまでサポートしました。生活の危機から脱出することができ、彼は「そばにいてくれただけで安心できた」と言っていました。一人の人生に小さな灯をともすことができました。ことをうれしく思いました。

どんな相談も真剣に対応する井口議員は本当に頼りになります。いっしょに相談センターの活動をもっと充実させていきたいと思えます。

こころのこぼれ

生まれは長野県岡谷市。眼下に諏訪湖、向こうに八ヶ岳と富士山を毎日見て育ったので、上京して豊かな緑の中で住みたくて選んだ場所が多摩区生田でした。

大学1年のときに学費値上げ反対の署名運動に取り組み、県議会に提出しました。賛成は一党のみ。この時初めて私たちの声を聞いてくれた共産党に触れたのでした。

働きながらの子育て

子どもは大学生。保育園、学童保育のお世話になりながら、仕事と子育てをなんとかやってきました。近くの認可保育園に入らず、1年間、

自転車片道30分の無認可保育所に通いました。夜中に子どもが熱



を出しても財布にお金がなくて病院に行けずおろおろしたことも。お世話になっていた学童保育への市の補助金の廃止が強行されたとき、仲間のお父さんやお母さんたちと毎週駅頭で廃止反対の署名を集めました。こうした経験が、市民の切実な声を議会で代弁するとき、私に力を与えてくれます。

現場の声を議会に届けて

国の障がい者福祉がどんどん後退してきました。川崎市では議会と市民の運動で利用料は低所得者はほとんど無料になったものの、医療費の負担が増えています。小さな作業所は補助金が少なく、運営がほんとうにたいへんです。そうした現状を議員団の障がい者問題チームの責任者として、いつも現場に行つて、お話をうかがい、思いをつにして改善を求めてきました。

「ある日突然、隣の木が全部伐採され、マンションが建つとつのです。日が全く当たらなくなります」という相談にもいくつも

のつてきました。建築基準法に合致していれば、日影になるのが、緑がなくなるのが建てることのできるのがいまの仕組みです。私はその悲しい、

くやしい思いを自分のものとして、その現場に立つて、住民の皆さんとつっしょに行政や事業者との交渉にあたってきました。粘り強い交渉のなかで緑地を大きく残せたこともありました。



憲法前文や9条などを読むたびに、戦争で命を失った人たちの無念を想います。食べるものもなく苦労した父母たちの世代の苦しみを想います。この憲法には、こんな戦争を一度と繰り返してはいけなという決意が込められています。憲法の描く日本をつくるという呼びかけに感動して、私は日本共産党に入りました。平和で安心して暮らせる社会にするために、私ができることは全力でやりたい。そう思って、駆け回る毎日です。

こころをつないで

とことん現場

井口まみの駆けある記

井口まみのお約束



■ 生田浄水場を残しましょう

■ 母と子のねがいを市政へ届けます

● 小児医療費助成制度は中学卒業まで所得制限なしで ● 認可保育園を増やし、幼稚園の保育料補助の増額を ● 小3、中1で35人学級を ● 中学校給食は自校方式で

■ 高齢者、障がい者が大切にされるまちに

● 特別養護老人ホームの緊急増設を ● 介護保険料、国民健康保険料の軽減を ● 障がい者福祉の充実を

■ 乱開発から貴重なみどりを守ろう

■ 原発に頼らない自然エネルギー創出のかわさきへ

■ 中小業者を支援し地域経済活性化にとりくみます

● プレミアム商品券のプレミアム分補助を ● 住宅リフォーム助成制度の創設を ● ものづくりへの支援を ● 農業振興を

■ 通勤混雑を解消し安全安心な交通体系を

● JR中野島駅の橋上駅舎実現までの間、北口臨時改札を ● 小田急線の向ヶ丘遊園駅―新百合ヶ丘駅間の地下2層化で複々線化を ● バス路線のない地域にミニバスや乗り合いタクシーを

■ 生田地区に社会教育施設を

■ 多摩川のサイクリングロードを布田橋以北もつなげます

■ 震災対策の抜本的強化にとりくみます

■ 不要不急の大規模開発をやめさせ、市民生活最優先の市政に切り替えます



プロフィール

1961年、長野県岡谷市生まれ。長野県立諏訪二葉高校卒。愛知県立大学外国語学部に学ぶ。

日本共産党国会議員秘書8年。

2003年川崎市議会議員初当選。3期連続当選。現在市議会環境委員会副委員長。

多摩区菅稲田堤在住。民生委員2期目。家族は夫、一女。

社会福祉法人なごみ福祉会評議員。新日本婦人の会多摩支部委員。